

鹿児島県内子牛の1993年における出荷頭数と価格変動の特徴

伊 東 繁 丸

目 的

牛肉の自由化と景気低迷により子牛価格が暴落し、生産者に大きな打撃を与えている。今後の相場展開によっては、生産意欲に大きく影響を与える。入来牧場も同様に極めて厳しい状況におかれている。そこで本調査では、平成5年の鹿児島県内子牛市場の集荷頭数や価格変動を調査し、入来牧場運営の基礎資料を得ようとした。

材料と方法

鹿児島県内（都城市場含む）の子牛市場（19カ所）について調査を行った。調査期間は1993年1月～12月までの1年間とし、県内の月別売上頭数、月別売上額および去勢・雌の市場別平均価格を調査した。

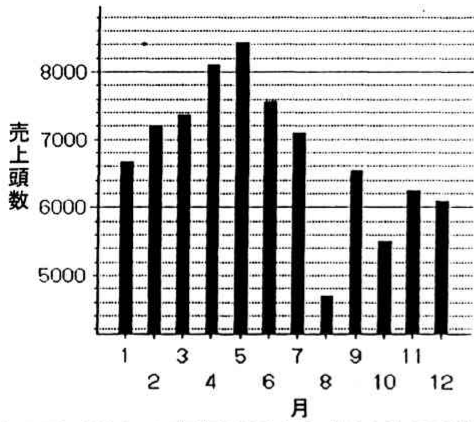
結果と考察

市場規模は、本土においては曾於および肝属が、離島においては種子島および和泊が大きい。市場別の月別売上頭数及び売上額は、1月から5月が多く6月以降は少なく推移し、特に8月は少ない値を示した。その結果、鹿児島県全体での月別売上頭数は、1月から5月にかけて多く、6月以降は少なくなり、特に8月が少ない値を示した（第1図）。月別の子牛平均価格は1月および2月が高く、3月から急落し、4月以降は更に低く推移し、平年では価格が上昇する牛肉需要期の11月から12月の間も、価格上昇は見られなかった（第2図）。

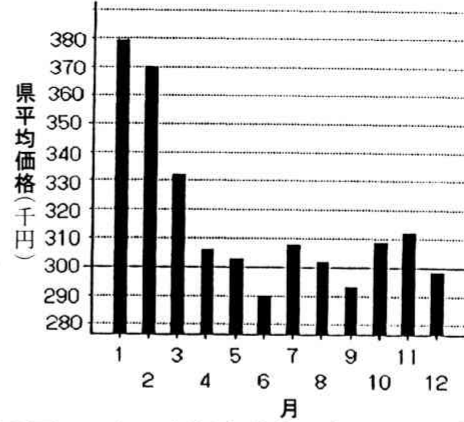
去勢子牛の価格を大規模市場間で、年間を通して比較すると、始良市場は高く、次に都城市場が高く推移した。しかし、曾於及び肝属市場は、始良及び都城市場より有意に低く推移した（第3図）。奇数月市場の大口、鹿児島中央及び指宿市場での去勢子牛価格は、大口と鹿児島中央市場が有意に高く推移したが、肥育地帯である指宿市場の価格は有意に低く推移した（第4図）。偶数月市場の薩摩、出水及び熊毛市場の去勢子牛価格は、肥育地帯の出水市場の価格が有意に高く推移した。また繁殖地帯である薩摩市場の価格と離島の種子島市場間における価格の推移には、有意な差が認められなかった（第5図）。

雌子牛の価格を大規模市場間で比較すると始良、都城、曾於及び肝属市場の順で価格差が見られ、特に始良市場での価格が有意に高く推移した（第6図）。奇数月市場の大口、鹿児島中央および指宿市場の雌子牛価格は、大口及び鹿児島中央市場で有意に高く推移した（第7図）。偶数月市場である薩摩、出水および熊毛市場の雌子牛価格の年間推移は、特に出水市場で高く推移し、熊毛市場との間で有意差が認められた（第8図）。

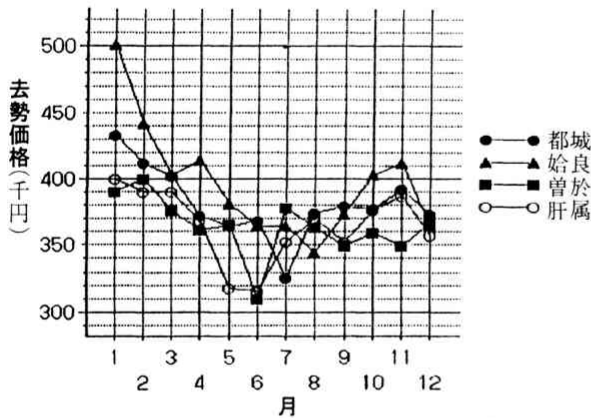
以上を要約すると、1993年の子牛価格は3月以降急落し、その後全体として低く推移し、牛肉需要期の11月から12月にかけても、上昇は見られなかった。また市場規模や繁殖子牛及び肥育牛の生産地帯等各種要因により、去勢・雌子牛とも、市場子牛価格の年間推移に有意な差が認められた。これらの原因を更に検討し、今後の牧場運営に役立てる必要がある。



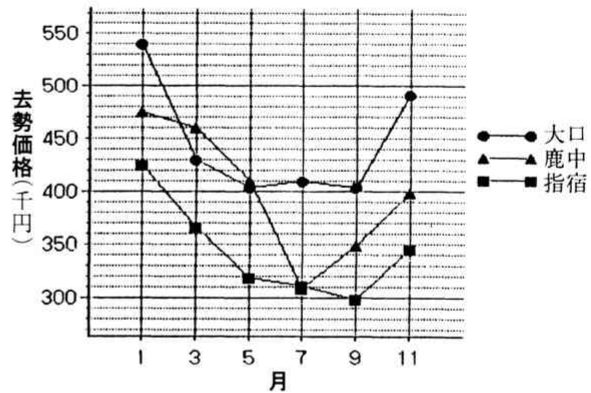
第1図 '93年の鹿児島県内における黒毛和種子牛の月別売上頭数。



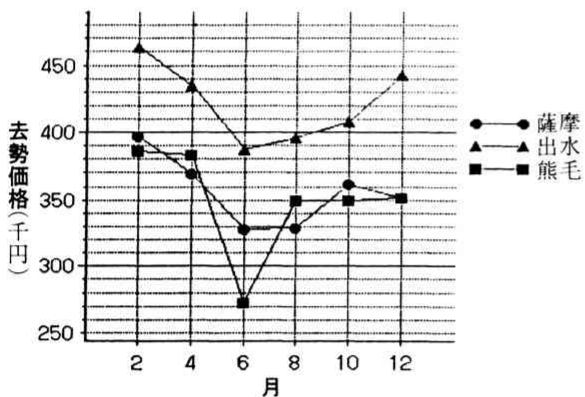
第2図 '93年の鹿児島県内における黒毛和種子牛の月別平均価格。



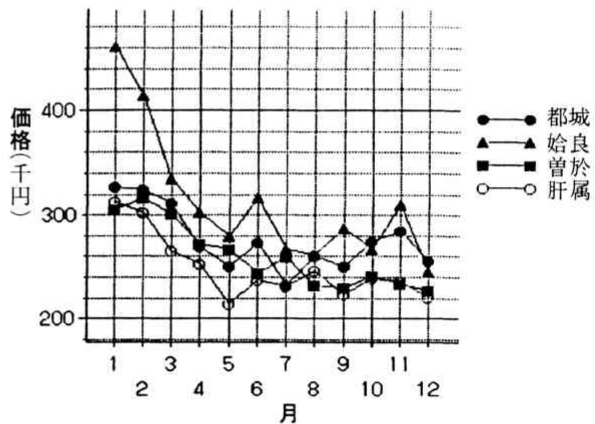
第3図 '93年の主要市場における黒毛和種去勢子牛価格の推移。



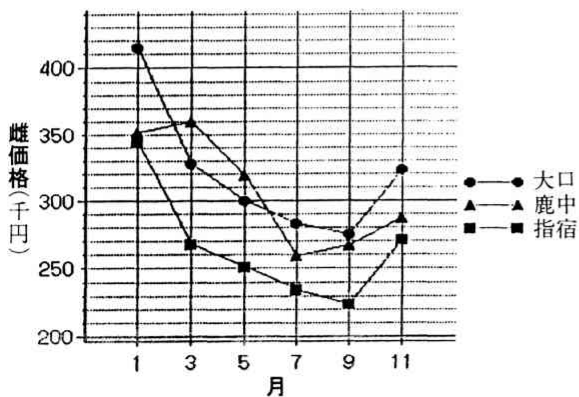
第4図 '93年の大口・鹿中・指宿市場の黒毛和種去勢子牛価格の推移。



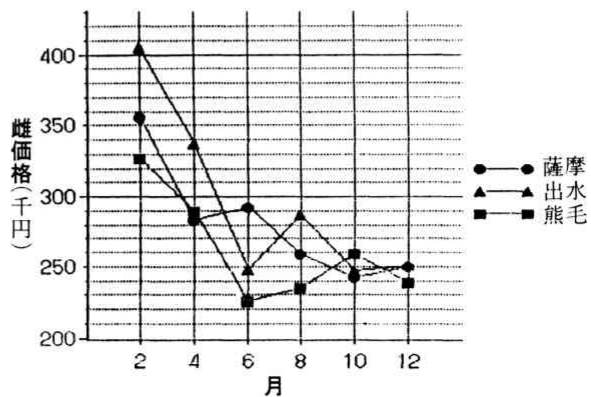
第5図 '93年の薩摩・出水・種子島市場の黒毛和種去勢子牛価格の推移。



第6図 '93年の主要市場における黒毛和種雌子牛価格の推移。



第7図 '93年の大口・鹿中・指宿市場の黒毛和種雌子牛価格の推移。



第8図 '93年の薩摩・出水・種子島市場の黒毛和種雌子牛価格の推移。